

平成20年12月定例議会

一般質問

★肺炎球菌ワクチン接種に対する助成について。

町では希望者・医師が勧める方を対象に5医療機関で予防接種を行っており、自己負担額は6,000～8,000円です。今後、町内の医療機関とも協議・検討します。

★在宅介護の必要な高齢者の紙おむつ代の助成について。

要介護4及び5に相当する在宅の高齢者で、町民税非課税世帯に、年間限度額10万円として助成しています。次年度からの第4期介護保険事業に向けて、内容を検討します。

★公用車の維持管理に、不適切な行為をした業者の対応は。

物品納入や委託業務のみの罰則規定等を定めていません。今回、不誠実な行為があつ

た業者には、報告や謝罪文書を徴した上で、鏡野町建設工事等請負契約に係る指名停止等措置要綱に準用して、3ヶ月の指名停止処分をしました。今後そのような事象が発生した場合は、その都度内容等を検討して対応します。

★県財政危機宣言に伴う財政構造改革プランのその後は。

県下市町村との協議・見直しが行われ、最終プランでは素案よりも9億円の減額です。

9月議会において、本町が20年度歳入予算に計上した県支出金のうち、影響のある額は4,100万円あまりと答えましたが、調整の結果、情報通信基盤整備事業3,939千円、森林地域活動支援交付金9,128千円、地域振興事業交付金8,600千円の合計2,100万円程度が見直されました。

★雇用促進住宅の譲渡は。

閣議決定により、平成33年度までに譲渡または廃止を完了、23年度までに全住宅数の2分の1程度を前倒しして廃止決定し、売却を加速化するとされています。

県内では74箇所中22箇所が該当していますが、前倒しの中に鏡野宿舎は含まれていません。

雇用・能力開発機構から、20年度末までに本町からの譲渡希望が無い場合、また民間への売却が不調の場合は廃止するとの文書が届いています。

町が取得する場合の財源、用途、修繕等を、取得しない場合の地方交付税や住民税の歳入、学校・保育園等の運営、地域経済への影響等についての問題を検討しています。

★古田ダム移転住宅地として県が整備した塚谷団地の状況。

総面積17,000㎡、19区画を昭和63年4月に分譲開始し、3区画を売却、2世帯が入居しました。平成11年度にダム移転者への分譲が見込めないことから、一般分譲を行っていますが、16区画は未売却です。分譲開始時点の価

格は坪で67,000円、11年11月時点で75,570円です。定住促進のためにも、今後も県に対して協力していきます。

★県道湯原奥津線箱地内1,200m区間の3月完成を目途とする工程と進行状況は。

美作県民局によりますと、今年度当初の残工事のうち、97%の発注を行っています。20年度事業分である一般土木工、法面工、舗装工、交通安全施設工は全て発注しており、残り3%は暫定での供用開始を行った後、21年度上半期の早い時期に現道とのすり付け部分の工事を発注する予定とのことです。

19年度繰越事業分は12月末をもって全て完了予定であり、20年度発注分は12月中旬現在、約60%完了しています。残工事は平成21年3月31日完成予定です。

★山田養蜂場基金の運用と寄附への感謝の気持ちをどのように表すのか。

教育委員会が基金を財源として「特色ある学校づくり支援事業」「社会教育振興事業」「スポーツ機器整備事業」を

予算化し、820万円を繰入予定です。他のまちづくり、福祉の各基金は検討中です。各基金条例の目的に沿った事業を立ち上げ、住民の皆様が利用、適用できる施策を早く実施することが、寄附者のご厚志に報い、感謝の意を表すことになると思います。基金事業の周知も必要と感じています。

★町道市場沖線の改良と、待避所の設置が必要ではないか。

県道に格上げし、県に道路改良をしてもらうべく協議してきましたが、財政危機宣言がなされ、事業評価委員会に諮ることすらできないとの回答を11月下旬に得ています。

今後は、交通量の推移を調査検討し、一番効率的で経済的な道路構造基準と線形の見直しの必要があるため、21年度当初予算に設計委託料を計上して、町道改良を推し進めたいと考えています。

★基幹幹線美作北2号線は美観、交通安全にふさわしくないため、整備が必要では。

林道管理者として、利用者の安全確保の観点から、視距